

現場技術報告

Technical Articles

鉄と鋼 第78年 第1号 平成4年1月

目次

エキスパートシステムを適用したコークス乾式消火設備自動運転制御システムの開発	飯田 洋行・宮田 英憲・斎藤 英之	… T 1
AOD熱付与技術の開発経緯	中山 傑・中坪 修一・津野 雅英	… T 5
最近の新日鉄堺大形工場のリフレッシュ状況	藤田 和夫・阪田 貞一	… T 9
薄鋼板の高精度微小内部欠陥検出システムの開発	稲葉 護・竹腰 篤尚・ 岩永 賢一・牧 宏・古川 高人・安藤 静吾・保久 光男	… T13
溶融亜鉛めっき鋼板の亜鉛付着量均一化技術	清水 正文・中村 秀樹・前田 恭志	… T17

Contents

Development of Coke Dry Quenching Automatic Control System by Expert System	Hiroyuki Iida et al.	…T 1
Development in AOD Heat Supplying Technologies	Suguru Nakayama et al.	…T 5
Recent Development of the Nippon Steel Corp. Sakai Large Section Mill	Kazuo Fujita et al.	…T 9
Development of the High Level Minute Interior Defect Detector System for Steel Sheet	Mamoru Inaba et al.	…T13
Improvement of Zn-coating Uniformity	Masafumi Shimizu et al.	…T17

「現場技術報告」原稿募集

「現場技術報告」は、現場における技術の新しい試みなど、すなわち、効率化、コスト低減、省エネルギーなどに効果のある結果についての報告です。(具体例は、以下に示します。)講演大会で実際に講演をする時に用いる程度の図表をまとめたくらいの分量と内容でよいかと思えます。記事の長さは本会所定のオフセット用紙2枚以上、4枚までと致します。詳細は“投稿規程補足(現場技術報告)”をご覧ください(裏面掲載)。投稿後3か月前後で掲載されるようになりますので、現場技術者の方々をはじめ、会員各位には奮って投稿されるようお願い致します。(なお、「現場技術報告」として投稿した内容を「論文」としてまとめ直して再度ご投稿下さっても結構です。)

「現場技術報告」記事の内容例

- | | |
|---|---|
| 1) 現場設備の老朽更新と増強 | <研究結果が未発表であれば、合わせて論文とされることを推奨> |
| 2) 設備(耐火物を含む)の寿命、耐久性、診断技術 | 11) 現場規模の各種試験結果(通常の原料、操業条件とは大きく隔たった特殊操業も含む) |
| 3) 新設備、新技術の導入と結果 | 12) 新設備、新プロセス、新製品及びその利用技術開発(商業的宣伝にならないもの) |
| 4) 無人化、省力化 | <論文として投稿可能な内容は論文として投稿されることを推奨。理論あるいは実験結果による裏付けがなく、単なる思いつき(発想)で生まれた新技術の成功例でも可> |
| 5) 環境、省エネルギー対策 | 13) シミュレーション(数字モデル)による製品の品質、操業などの改善の提示 |
| 6) 製造及び製品利用工程における改善対策(品質、効率、耐久性、操業、歩留りなど) | 14) 海外技術指導 |
| 7) 上記改善のための操業管理基準、原料品質管理基準の見直し | 15) 現場技術を中心とした記事で、将来論文にまとめうる内容であるが、とりあえず公表したい場合 |
| 8) 物流システムの開発、改善 | |
| 9) 工程、製品管理システムの開発、改善(AI、ニューラルネットなども含む) | |
| 10) 既発表研究成果(分析・計測の方法・機器、設備、プロセス)の現場適用結果 | |